

総合的な学習の時間 サポーターとしての活動と感想

薬食生命科学総合学府 食品栄養科学専攻 大学院生

<サポート内容>

・グループの作成

(本講義は4つの学科の生徒が混合していたため、それぞれの専門知識を生かしながら総合的な学習に取り組めるよう、なるべく学科が混合するようにグループを作成した。)

・LINEのグループ作成

(今回、授業の連絡や授業時間外の資料の共有にLINEを使用した。学内メールや他のメールを使用することもできるが、LINEを使用するメリットとしてはメールに比べて短文で気軽に使用ができること、グループを作成すれば簡単に全員と資料を共有できることなどがあげられる。しかしLINEは個人情報ともなるため使用したくない生徒がいる場合は個別の対応ができるよう準備する必要がある。)

・Zoomの操作

(主にサポーターとして行ったことは、Zoomのミーティングの立ち上げ、指導教員を共同ホストとすること、授業時の学生の入室許可、チャットを利用した資料共有、チャットを利用した質問や意見の整理、ブレイクアウトルームの作成などがあげられる。)

・Googleフォームによるアンケート機能の使用

(講義内で各グループの発表を評価・集計する際にGoogleフォーム内のアンケート機能を使用した。アンケートはあらかじめ作成しておき、講義中にチャットから全員へ送信、回答を順次回収した。アンケート機能では回答者の人数把握や結果・集計が瞬時に確認でき、結果をエクセルとして取り出すこともできるため非常に便利である。)

<サポーターとしての感想>

10年後には今の時代にはない仕事は様々な存在している、という話はよく聞きますが、今回の私の役割もコロナ感染症の影響でオンライン講義となったために生じた一つの新しい仕事だと感じました。現在、教育におけるICTの利用は進み、その利点を生かした授業が様々な形で展開されています。しかしながら使用できる機能を完全に理解し使いこなしながら授業も完璧に行うというのはおそらく至難の業だと感じます。実際に今回私がサポーターとしてZoomなどのツールを完璧に使いこなせたかということそんなことはなく、先生や学生の協力があってこそ講義を最後まで形にすることができたのだと心から思う結果となりました。もしこれから初めてオンラインを利用した授業を行う方やオンライン授業に自信のない方がこの文書を読んでいたならば、授業を通じてながらかまわないのでとにかく一生懸命触ってみてほしいと思います。またその際、授業ペースにはあらかじめ時間の余裕を持たせ、トラブルがあっても焦らず、学生とのコミュニケーションを大切にしながら臨機応変に授業を進めていくことを意識して取り組んでいただきたいと思います。完璧にできないと恥ずかしいなどということは絶対にないので、ぜひチャレンジしてみてください。

話を今回の総合的な学習の時間の授業に戻します。今授業は4日間にわたりすべての講義がオンラインで実施されました。授業ではオンラインならではの利点を生かし遠方のゲストの先生とZoomをつなぎ講義をしていただいたり、Zoomのブレイクアウトルームを利用してグループごとのディスカッションや意見交換を行ったりしました。また最後にはグループごとにテーマを決めて実際に総合的な学習でそのテーマについて考えたらどうなるかを各自の学ぶ専門分野と絡めながらまとめていただきました。全体の授業を通した結果として、最後の発表会ではどのグループも個性あふれる発表を行い、それぞれの専門知識を共有しながら話し合いを行えたことが理解できる良い発表会となりました。

今回の授業を私なりに振り返りますと、最後まで授業ができたのは大きく二つの要素があったからだと考えられます。

一つ目は学生の興味や知識です。今回は4日間という短い時間で発表を完成させるというかなりハードなスケジュールでしたが、学生は今まで最低でも2年間（受講生は全員学部3年生以上のため）は各自の専門分野を学んできたため各自の社会への興味や知識があるうえで各分野の知識を統合し発表を完成させることができました。しかし対象が小中高校生である場合、私の経験上短期間ですぐに多くの分野のことを理解し話し合うことは非常に難しいと考えられます。特に高校生であっても全員が探究まで意識して発表を行えるかというところではないと感じます。小中高校生で総合的な学習の時間および探究の授業を行うには、じっくりと分野を学べる事前授業や体験実習を行い、いかに学習者に興味を持たせられるかが重要になると考えられます。

二つ目は学生のICT活用能力です。今回の授業では初めて顔を合わせるメンバーがほとんどでしたが、オンラインのみで話し合いを行い、発表まで完成させることができました。しかし対面時に比べるとどうしても各自の様子がわかりにくく、グループ内での作業の比重もばらばらになりがちです。また先生も各グループへの指示が行いにくいいため、指導が難しくなります。今回は受講生がレポート作成などの経験がある大学生であったため、発表として形にすることができました。しかし学部一年生の前期などではまだPC操作に不慣れな学生も多く、短期間での発表作成が困難であり、できてもグループ内で作業の比重に差が生じてしまう可能性が考えられます。オンライン授業の性質上、対面時とまったく同じように机間巡視を行うことは難しいですが、中間報告や先生との相談時間を設けるなどの対応を取りながら進捗を確認することが大切だと考えられます。

最後に、今回サポーターとして講義を支えることができたのは、トラブルが生じてでも怒らず臨機応変に対応し授業を進めてくださった馬居先生と、授業に真剣に取り組み、指示が滞った際も温かく見守ってくださった学生の皆様のおかげです。感想の場ではありますが、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。